第４回　5/11　「デジタル創作事変Ⅱ　～3.11 音楽業界の定点観測～」

亀田 誠治（かめだ・せいじ）先生　　音楽プロデューサー

1964 年、アメリカ、ニューヨーク生まれ。辰年。
1989 年、アレンジャー、プロデューサー、
ベースプレイヤーとして活動を始める。
椎名林檎、平井堅、スピッツをはじめ、Do As Infinity、SOPHIA、
YUKI、スガ シカオ、Chara、アンジェラ･アキ、秦 基博、
エレファントカシマシ、JUJU、チャットモンチー、フジファブリック、
NICO Touches the Walls、のあのわ、WEAVER、杏、
ハナエなどのプロデュース＆アレンジを手がけている。
2004 年夏から椎名林檎らと東京事変を結成。

公式ブログ「亀の漫遊記」更新中　http://www.ganso-makotoya.com/blog/

［参考ＨＰ］　一般社団法人 日本レコード協会 公式ＨＰ　http://www.riaj.or.jp/
オリコン･エンタテインメント株式会社 発行 「ORIGINAL CONFiDENCE」

《講義概要》

音楽プロデューサーとして数多くのアーティストのプロデュースやアレンジを手掛ける有限会社誠屋代表の亀田誠治氏が、音楽業界へ与えるデジタル化の影響について講義を行った。

講義では、東北地方太平洋沖地震の起きた３月 11 日を定点観測地点として、アーティストとデジタルネットとの関わりの変化について、「時間の短縮」「距離の短縮」「敷居を下げる」の３つの観点から説明。デジタル技術の目覚しい発展が、震災後の様々なアーティストの熱い思いや行動を形にし、多くの人々へ瞬時に届けることを可能にしたことなど、人と人との繋がりにおけるデジタルネット文化のプラスの面を多数紹介。デジタル化は様々な問題を抱えているが、今後はプラスの面に着目し、新たなビジョンを組み立てていくことが重要であると指摘した。そして、情報の溢れる中で、必要なものを見極めて「精度と感度」を上げることが、デジタルネット文化との付き合い方において最も大切であると学生へ強く訴えた。

さらに、「愛の入ったアイデアやクリエイティブは人々に伝わり、人を動かす力になる」と伝え、ものづくりにおいて大切な考え方についても示した。

《受講生の感想》

●チャリティー音楽が今回の震災においてものすごいスピードで配信され、被災者の方にすぐにメッセージを届けるようになったことがデジタルネットの一つの貢献だと改めて感じました。亀田先生もおっしゃっていたように、情報の「シェア」から生まれる利益というものをこれからの新しいビジネスモデルとして考えて構築していく必要があるのではないかと私も思います。それと同時に、ネット上でのマナーやルール作りも急がなければならないと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●デジタルの発達と共に出来るようになった事が増え、今回のような災害時にいち早く「伝える」ことが可能になったのは、デジタルの発達のいい面だと思いました。「アイデア＝愛デア」というお言葉がすごく印象に残りました。アイデアには人を動かす力があるものだと実感しました。デジタルは敷居を下げるという考えは、このようなイメージを持ったことがなかったので斬新でした。　立命館大学・産業社会学部・2回生

●デジタル文化が拡がったことによって、ＣＤが売れなくなるなど、クリエイターの立場にはネガティブな影響が多いのではと思った。しかし、亀田先生はデジタル化のポジティブな面をたくさん見つけていて、デジタル化によって時間・距離は短縮され、敷居を下げたということが印象に残った。デジタル時代において、私たちは感度を上げて見ていかなければならないということを学んだ。立命館大学・産業社会学部・2回生

●デジタル化が進む今、それがもたらすたくさんのメリット、そして同時にデメリットがあると思います。震災があった今、デジタルネットは様々な面で役立ったことは事実です。速さがあるデジタル社会でも誰かが誰かを思う気持ち、伝えたい気持ちは変わらないと思います。「アイデア＝愛」とおっしゃられていましたが、とても共感しました。誰かのためにという気持ちがあるからこそ、アイデアが生まれるのだと思います。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●ものづくりの基本は、受けとる人のことを考えてその人たちのためにつくること。対象がなくただ作った作品はアイデアとは言わない。愛のある作品は人々を動かすことができる。今回の講義で一番心に残りました。デジタル/ネット文化ではＣＤの売上が下がる、違法ダウンロードなど否定的なことばかり言われているけれど、お話しを聞いて良い側面がたくさん分かりました。もっと自分の感性を磨いて今の技術の進歩を最大限に利用できる人になりたいと思います。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●アーティストの方々が、自分たちに出来ることを考えて、それぞれが行動する力を発揮しているところが素直に良いなと感じました。特に力のない学生の自分にでも小さなことでも良いから、被災地の方々のために出来ることを探して行動していきたいと思いました。

立命館大学・産業社会学部・2回生